

第8回新しい公共島根県運営委員会議事概要

日 時 平成24年10月18日(木)

13:30~16:00

場 所 県庁6階講堂

■開会

■委員長挨拶

- ・先日、いきいき活動促進ロゴマークの最優秀賞受賞者の表彰式があって同席した。そこでも話をしたが、島根県は、皆さんも御存じのとおり随分と一生懸命やられてきて、ここ10年ぐらいで全国でもトップレベルと一部では言われるようなぐらい政策を打ってきたと言われる。しかし一方で、県民のいわば草の根のところまで、いきいき活動というものが浸透してるかいうと、そうではないかもしれない。もっと、県民一人一人に届くような、そういういきいき活動促進、充実していく必要があると思う。

■報告事項

「新しい公共支援事業実績報告について」

- ・事務局説明

<主な意見>

- ・報告書に対する委員会の評価結果について、難しいとは思うが、あまり評価的なことが入っていないという気がする。現段階では数字がきちんと出ていないということもあると思うので、半年後の最終のところではきちんと数字、活動の評価を付け加えて欲しい。

■報告事項

「地域別県民いきいき活動支援ネットワークづくり事業の実施状況について」

- ・各事業実施団体から説明

<主な意見>

(自立できるふるさとを創造する会)

- ・非常に広い広がり、この大切な図書館を生かし支え、地域のためになるよう様々な工夫しておられてと思うが、特にボランティアや学生との関わりについて具体的に教えて欲しい。
- ・浜田高校校長先生に、図書館を軸にした地域づくりとか市民参画の話をいろいろ教えてもらったことがある。団体の方や市の職員も一緒に、この方にアドバイスをもらおうと良いのではないか。
- ・市民みんなのための図書館づくりということを、ぜひ成果を上げて成功させていただきたいと思う。このネットワークに参加しておられるいろんな団体があるが、このネットワークの協議の中で様々な課題を一緒になって解決しようというような動きが出てくるよう頑張っていたきたい。
- ・一般企業とのネットワークを構築というふうに書かれているが、具体的に教えて欲しい。
- ・中間支援的な役割のイメージはあるか。

(松江NPOネットワーク)

- ・松江市にはNPOが幾つあって、加入率がどのぐらいなのか教えてください。
- ・組織拡大という意味で、あと半年間で加入団体の目標があれば教えて欲しい。
- ・今、会員数の話が出たが、中間支援組織を目指すということで多ければ多い方がいいかもしれないが、むしろ組織の内容を高めていって、参加しておられないNPOさんにもいろんな形で影響力を持っていく、役に立っていくという方向を目指すということも

非常に大事だと思う。目標は目標として持つのはいいが、ぜひそういった働きかけ、内容の方を充実していただきたい。

- ・労金さんの方が使わなくなった事務用品を寄附されたときいたが、私の方でもすぐに検討したい。
- ・私は現在森林保全に取り組む山陰ネットワーク会議というものをやっているが、本来はネットワーク化を図って何をやるんだというのが次にないといけないが、ネットワークを構築するということがいつしか目的になってしまった感があり反省している。ネットワーク化の先に何があるんだというものは常に発信をしていかないと、会員になっていただいた方々も何のために集まったのかわからなくなり形骸化してしまう危険がある。
- ・松江市として、このようなネットワークができて最も良かったことは、このネットワークが様々な面で良き相談相手となったこと。
(安心快適ない〜にゃん暮らしサポート事業)
- ・手数料収入の部分について詳しく説明して欲しい。
- ・町からの業務委託とか常勤の給与が出るような業務など、何か核になるものはあるか。
- ・事務支援サービスは、例えば行政書士法とか司法書士法とか税理士法とかに抵触しませんか。
- ・病院の透析患者さんの送迎について、病院側の支援はないか。都会地では透析患者さんの奪い合いが始まっており、病院側が送迎するという事例もある。病院や介護サービス事業者とのネットワーク化も検討してはどうか。
- ・ケーブルテレビ網の活用について検討し研究されるということだが、い〜にゃん暮らしサポート事業としては、町へ提言の報告書を出されるというところで一応一区切りということで、その後は中間支援組織としての活動に重点を置かれるというふうにシフトしていかれるということなのか、里山コミッションさんの今後の活動の中に、ケーブルテレビ網の活用というようなことを取り入れていかれるということなのか、教えて欲しい。
(好木心の総合窓口開設事業)
- ・協力団体25を回ったといわれたが、回るだけでつながるものかというのは素朴な疑問。回られる中で何かかきみみたいなものがあるか。
- ・今回ネットワークをつなげようというのは、この事業がきっかけだったのか、何かその前にきっかけがあったのか。
- ・ネットワークの意味について聞いてみたい。事業名にも「ネットワーク」という文言があるが、樹冠ネットワークさんの名前にも「ネットワーク」という文言がある。樹冠ネットワークさんが主催して事業を何本か打ち、それに様々な団体が協力するというのはそもそも団体が実施する事業そのものであって、それが新たなネットワークづくりなのか。ネットワークづくりというのは、様々な団体が集まって対等な立場でみんなでどのような活動をしていくかを話し合った上で事業を起こしていくというものではないか、この点が少し分からなくて聞いてみたい。

■報告事項

「県民いきいき活動促進キャンペーン等について」

- ・事務局より説明

<主な意見>

- ・研修やフェスタについての、企業の関心はどのくらいあると思うか。
- ・寄附付き商品に関する問い合わせはあるか。
- ・ロゴマークとキャッチフレーズの件について、県内者の応募はどのくらいあったのか。

- ・フェスタはどのような層をターゲットにしているのか。
- ・キャンペーンの中で、写真募集があるが、審査形式にしてはどうか。
- ・広報について、県内のケーブルテレビの活用も検討してはどうか。

■その他

「井上アドバイザーからのご意見」

- ・私も千葉の方に戻り、改めてこの島根県のNPOと行政の協働の力がいかに存在感が大きいかということを実感している。都会の方は、文化や趣味に関するサークル活動は非常に活発だが、系統的に地域力を支え、地域の社会の力、経済の力、文化の力を高めるというところに結びつく活動は島根県に比べてまだまだ存在感が薄いように感じる。
- ・もともと2000年のころから島根県レベルでNPOの活動に注目し、それを支援し、行政と協働の力によって地域の活性化を図って、それを支援していくという流れがあったと思う。それが毎熊ゼミの提案のいきいき活動促進条例の提案と議会の議決によって、かなりもう自前でスタートしてる。最近、新しい公共っていう、確かに政府はそういう概念を使っているが、本当は公共というものをどのように支えていくかという担い手をもっと新しくどンドンどンドン広げていくという意味だったんだと思う。いきいき活動促進というのもともとそういう意味で、新しい公共という看板が出ようと出まいと、もともと島根で積み上げてきた内実であったんだらうと思う。そして、県のレベルから市町村のレベルにNPOの認証等権限が移っていき、これにより活動が促進された面と、自治体間での温度差もありまだまだという面がある。この活動の姿がようやく見えてるところから進めてきて十二、三年しかたっていないわけだが、島根においては市民社会の中でますます恒常的に、社会の持続可能性を担保する重要な装置の一つとして、みんなで支えてやっていくということが大切。そういう点で、ここでもう一回アクセルを踏み直して地域を見据えてくということなので、昨年2月、3月に策定した島根県民いきいき活動促進基本方針や行動計画に基づいて、ちゃんと腰を落としてやっていくという点で、キャンペーン等を実施することによりもう一回これを県民の末端まで届くような発信をするということは非常に時宜を得た企画ではなかったかと思う。
- ・また、一番大切なことは、国のレベルを含めて、やはり民間及び企業からの寄附によって自前で地域の活動を支え合っていくという点について、創設された企業サポーター制度に典型的にあらわされている。やっぱり企業の御理解と協力を地域の中で高めていくということに一步踏み出したことはとても大切なことだと思う。幸い、島根県の企業界、産業界ではこのような点にある程度理解があるのではないかと思う。今後さらに企業全体に浸透していくよう、NPOや行政、商工会議所、経営者協会などの協力もいただきながら、地域の中で資金循環の安定的な構造が構築されていけば、もっと全国のモデルになるのかもしれないというふうに感じている。
- ・それから、10数年前から、行政がこういう活動によってかなり体質や発想、活動量がアップしてきているように思う。行政と言っても県のレベルは相当浸透したと思いますが、市町村のレベルではまだまだだらうと思う。
- ・本日、数カ月ぶりに話を伺い、こういう形で着実に根づいて、政府の新しい公共という名前がなくなろうとなくならまいと、ずっと続いていく方向であることについて、大変心強く思ってます。私も地域に帰って活動するに当たり、島根から学んでいきたいと思う。

以上